

平成29年度3月定例記者会見 会見録

日時 平成30年3月23日（金）午後4時15分～4時35分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、さきほど散会いたしました3月定例会議につきまして、お話しをさせていただきます。定例会議につきましては、2月20日から32日間、ご審議をいただき、提案いたしましたすべての案件につきまして、ご議決をいただきました。議員の方々からは、平成30年度当初予算をはじめ、子どもの貧困対策、ひとり親家庭への支援などの子育て支援対策や、学力保障への取組をはじめとした教育環境の整備、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組など、多岐にわたる質疑等をいただきました。市といたしましても、「新・相模原市総合計画 基本計画」の最終年度に向けて各施策を着実に推進するとともに、次期総合計画の策定に向けた取組を進め、市民の皆様が将来に夢と希望を持ち安心して笑顔で暮らすことができる地域社会の実現のために、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、4月1日から供用を開始いたします、相模原ギオンスタジアムの夜間照明設備についてでございます。この競技場は、現在、ホームタウンチームの試合のほか、陸上競技大会や、市民選手権大会など、多くの方に利用されておりますが、このたび、照明設備が設置できたことから、夜間まで利用時間帯を拡大でき、選手や観客の皆様にとりまして、より充実したスポーツ環境が実現できたものと考えております。ホームタウンチームの選手には、よりよいコンディションの中で、最高のパフォーマンスを発揮されることを期待しております。

次に、本市緑区の青根地域に完成いたしました複合施設についてでございます。新たな施設は、緑区役所 青根出張所と、青根公民館、津久井消防署 青根出張所の3つの機能を集約した施設でございます。4月1日から本格稼働いたします。この施設は、非常用発電設備や、災害時に活用可能な貯水槽を設置するなど、防災拠点として活用できるほか、新たに救急車を配備し、地域の皆様の安全・安心な暮らしをしっかりと支える機能を備えております。3月29日（木）には、地域の方などをお招きし、落成式を行いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、4月7日（土）と8日（日）に開催いたします第45回市民桜まつりについてでございます。このお祭りは、市民が参加してつくる市内最大級のイベントで、今年も、鼓笛隊や神輿が桜並木を行進する「市民パレード」や、ダンスパフォーマンスを中心としたステージ、市民による絵画コンテストなど、様々なイベントを行います。毎回多くの皆様に楽しんでいただいている物産展では、今年も、北は北海道から、南は鹿児島県まで、銀河連邦各共和国をはじめとした絶品グルメを味わうことができます。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの関係では、ブラジル選手団の事前キャンプが市内で実施されることにちなんで、相模原青年会議所の企画で「サンバカーニバル」が行われます。なお、桜まつりの開催に先立ち、市役所さくら通りでの桜並木のライトアップも始まります。ぜひ、多くの皆様に本市が誇る桜の一大イベントをお楽しみいただきたいと思います。

さて、本日、選抜高校野球大会が開幕いたしました。本市からも、東海大相模が7年ぶり10回目の出場を果たされ、来週27日に初戦を迎えます。東海大相模と言えば、平成27年8月の夏の甲子園大会での優勝が記憶に新しいですが、春の大会でも過去に優勝2回、準優勝2回の成績を残しております。全国の強豪を相手に、勝利を積み重ねていくことは、容易なことではないと思いますが、持てる力を存分に発揮し、ぜひとも優勝していただきたいと思います。

最後になりますが、古賀副市長が、今月、3月31日をもちまして、退任いたします。古賀副市長は、平成28年1月10日から、約2年3カ月にわたりまして、国、及び各自治体における豊富な行政実務経験を存分に活かされ、新・相模原市総合計画の適正な進行管理をはじめといたしまして、市民協働や公民連携の推進、財政基盤の強化に向けた取組など、市政発展のために、力を尽くしていただきました。

私からは以上でございます。

（記者）

新年度も、子どもに対する支援対策、学力対策を行っていくという事ですが、年度末というひとつの区切りとして、今年度達成できた事、今後の課題となった事についてお聞かせください。

(市長)

日本全体で人口減少や少子高齢化の進行が見込まれる中、持続可能な自治体運営が求められています。そのような中で、それぞれの自治体が地方版総合戦略や人口ビジョンを策定し、取り組んでいるかと思います。本市は、戦後の人口急増の中でも、特に人口が急激に増えた都市で、今は高齢者の割合が24%ですが、20年後には40%を超え、急激に高齢化が進むと推測しており、今後は人口減少を抑制できるような、成長力を持つ都市づくりをしていく必要があります。本市は圏央道やリニア中央新幹線の整備など、国家プロジェクト的な事業が多いわけです。例えば圏央道については、広域的なルートが開かれ、経済を底上げする環境が整いましたので、今後はインターチェンジ周辺の土地利用の展開を図ってまいりたいと思っております。その他、相模総合補給廠の一部返還が実現した事もあり、一昨年には、国土交通省の交通政策審議会で、小田急多摩線の延伸についてその意義を認めていただく答申がなされましたので、1日も早い延伸の実現に向け取り組んでまいります。これまで、日本の高度成長に併せて相模原市自身は自治体としてどうあるべきかを考えながら成長を目指してまいりましたが、今後は周辺都市とも連携しながら、日本全体が発展できる、その一員になれるような市政展開をしていく事が、相模原市が果たす役割であると思っておりますので、一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。あと、一番大事な事は、市民が安全、安心に生活する事です。医療や介護などの福祉関連の予算についてはどの自治体でも最優先に財源確保しながら、成長戦略も加えて予算編成をしたいと思います。本市の場合はそれに加え、特に子どもの貧困対策、学力の保障など、子育て、教育環境の充実に力点を置かせていただきました。経済的な貧困と学力には相対関係があると言われていたことから、市民税非課税世帯の生徒全員を対象にした給付型奨学金制度の創設、子ども食堂や無料学習塾を運営している団体との連携、また、教育環境については、学習指導要領が改訂され、外国語教育が強化されることに伴い、英語教育の充実や、教員の英語指導力の向上の取組、さらに子育て支援策として、通院に係る小児医療費助成の対象年齢の拡充など、施策の充実を図る事ができました。その他、マイナンバーカードを活用した事業として、自治会などの公益性の高い活動に対して、「さがみはらポイント」を付与する制度を創設しました。自治会活動をはじめとする地域活動の活性化につながるものと期待しております。子ども、若者から高齢者まで、生きがいを感じ、希望を持って頑張れる社会を目指し、頑張ってもらいたいと思っております。

(記者)

先ほど東海大相模の選抜出場の話をしていましたが、甲子園に応援に行かれますか。

(市長)

野球は好きなスポーツですので、テレビで観戦させていただきます。

(記者)

スポーツ庁の有識者会議で、中学や高校の運動部の活動について、週休2日以上の子休養日を設ける指針がまとまりましたが、相模原市は、今後ガイドラインを作成するなどの検討をされていますか。

(市長)

今までは学校の先生に部活動の指導をしてもらっていましたが、先生方の負担、子どもの健全育成の面からも検討し、部活動指導員などの人材の確保や部活動の子休養日などについて、しっかりと対応しなければならないと思っております。

(記者)

新年度は週1日休みとするなど、具体的な検討はされていますか。

(教育長)

本年度、部活動の指針を作成しております。平日は週1回、休日は月2回を子休養日とし、それを第一段階として、来年度は国の基準に合わせ、段階的に活動時間を短くしていく方針で検討する予定です。また、部活動指導員の確保についても、すでに検討は進めております。

(記者)

週休2日の子休養日を設けるとスポーツの強化にならない、という様な意見もありますが、相模原市では国の基準に合せていく方向で議論を進めているという事ですか。

(教育長)

その通りです。そのことについては自治体によって対応が違うということも如何か、という事もありますので、本市がリーダーシップをとり、近隣の自治体の教育委員会に声をかけ、協議を始めています。

(記者)

どのあたりのエリアですか。

(教育長)

本市を含め、厚木、海老名、大和などの県央地区です。

(記者)

受動喫煙対策を強化する健康増進法改正案が閣議決定され、官公庁については敷地内禁煙という方針となりましたが、市役所庁舎内にある職員用の喫煙室は今後どうされる予定ですか。

(財務部長)

現在、職員の喫煙室については段階的に減らす方向で動いています。健康増進法の改正を見据えて、いずれは市役所庁舎内の喫煙室を無くし、庁舎外に喫煙場所を設ける方向で今検討を始めたところでございます。

(記者)

喫煙室の跡地はどうなりますか。

(財務部長)

例えば職員のロッカールームや会議室等として活用していくことになると思います。

以 上